

第10回定例北見市教育委員会会議録

(平成29年10月11日開催)



(平成29年第10回定例北見市教育委員会風景)

北見市教育委員会

平成29年第10回定例北見市教育委員会会議録

1. 日 時 平成29年10月11日(水)
開 会 午後3時00分
閉 会 午後3時24分
2. 場 所 北見市端野総合支所2階 大会議室
3. 教育長 志 賀 亮 司
出席委員 教育長職務代理者 浪 岡 康 二
委 員 横 岡 良志恵
委 員 坂 口 廣 典
委 員 那 須 美由紀
4. 出席職員 学校教育部長 伊 藤 智 則
社会教育部長 佐々木 賢 一
学校教育部次長 皆 川 毅
社会教育部次長 塩 浜 浩 二
指導室長 杉 浦 潤
端野教育事務所長 森 谷 幹 生
常呂教育事務所長 須 藤 勇 一
留辺蘂教育事務所長 安 井 留美代
学校教育部主幹 深 瀬 憲 永
指導室主幹 橋 本 正 之
指導室主幹 秋 山 康 則
総務課長 阿 部 実
学校教育課長 宮 川 真 一
学校給食課長 武 山 晃 己
生涯学習課長 熊 谷 朋 彦
スポーツ課長 三 上 剛
文化財課長 太 田 敏 量
北見中央公民館長 堀 一 男
北見中央図書館長 石 原 秀 人
端野教育事務所生涯学習課長 安 藤 三 男
常呂教育事務所生涯学習課長 松 橋 和 樹
留辺蘂教育事務所生涯学習課長 大 林 清 司

会議録作成者

大 石 創 三

5. 傍 聴 者 1 名

6. 議 題 報告第 1 号 平成 2 9 年第 3 回定例北見市議会の経過について
報告第 2 号 平成 2 9 年度北見市教育委員会「全国学力・学習状況
調査」の結果報告について

平成 29 年第 10 回定例北見市教育委員会議事録

(平成 29 年 10 月 11 日開催)

教 育 長 「ただいまから、平成 29 年第 10 回定例北見市教育委員会を開会いたします。」
(志賀亮司)

教 育 長 「はじめに、本日の会議録作成者に大石総務係長を指名いたします。」
(志賀亮司)

教 育 長 「次に、前回の委員会会議録に記載した事項に関して、特に発言がありましたらお願いいたします。」
(志賀亮司)

委 員 「ありません。」

教 育 長 「なし、との発言でありますので会議録は、作成のとおり決定をいたします。
(志賀亮司) 次に、本日の会議録署名委員を指名いたします。
署名委員には、浪岡委員、横岡委員の両名を指名いたします。」

教 育 長 「次に、教育行政について報告を求めます。
(志賀亮司) なお、説明・答弁については、着席のままでの発言を許します。」

教 育 長 「学校教育部長」
(志賀亮司)

学校教育部長 「学校教育行政執行報告」
(伊藤智則)

教 育 長 「社会教育部長」
(志賀亮司)

社会教育部長 「社会教育行政執行報告」
(佐々木賢一)

教 育 長 「ただいま、報告のありました教育行政に対し、ご質疑があれば発言
(志賀亮司) 願います。」

委 員 「ありません。」

教 育 長 「質疑が了しましたので、以上で教育行政についての報告を了しま
(志賀亮司) す。」

教 育 長 「それでは、本日提案されております議案の審議に入ります。
(志賀亮司) 報告第1号『平成29年第3回定例北見市議会の経過について』を報告願います。」

教 育 長 「学校教育部長」
(志賀亮司)

学校教育部長 「それでは、報告第1号『平成29年第3回定例北見市議会の経過に
(伊藤智則) ついて』ご説明いたします。平成29年9月7日開会の第3回定例北見市議会における教育委員会関係の質疑内容について、議案書では1ページですが、お手元の『平成29年第3回定例会における教育関係の質疑概要』にてご報告させていただきます。

本会議では、代表質問で公明党合田議員、市政クラブ田村議員の2名から質問がございました。また、一般質問につきましては、かけはし・新しい風倶楽部加城議員ほか2名の方からご質問がございました。代表質問につきましては、その内容をご報告させていただきます。

まず、1ページ、公明党の合田議員からは、北見市教育大綱について3点の質問があり、1点目として『子供たちがこの地域に将来住みたいと思えるよう、社会体験の充実を図るとあるが、具体的な取り組みと、社会体験がどのような効果をもたらすと認識しているのか』とのご質問がございました。教育長から『小中学校では、地域の協力を得て職場見学や職場体験の実施の他、小学生を対象に土曜学校や小学校4年生から中・高校生を対象に北見近郊の自然を活用したキャンプ事業等に取り組んでおります。これらを通じて地域社会を知ることにより、地域を愛する心を育て、多様な知識や経験を持つ地域の大人とふれ合うことにより、子どもたちの社会性や規範意識、コミュニケーション能力の向上に効果をもたらしていると考えております』と答弁がなされました。2点目として『家庭教育力の向上に関して、保護者に対する学習の機会及び情報の提供、支援するために必要な施策をどのようにされているのか』とのご質問がございました。教育長からは、『地域の子育てサークルなどを対象とした「こそだて学級」や幼稚

園、小・中学校のPTA、保育園の父母の会を対象とした「はぐくみ学級」を毎年度開設して、学習機会の提供と支援を行っております。また、教育専門相談員、児童相談所などと連絡先パンフレットを作成し、情報提供を行っているほか、北見警察署に協力をいただき、中学校入学時の保護者説明会において、ネット被害防止の啓発活動を実施しております。さらに平成20年から「家庭教育5つのふれあい」を定め、関係部局で推進プロジェクトを立ち上げ、親子が一緒にスポーツや文化活動を行う「親子ふれあい体験事業」を実施するなど、学校や地域と連携しながら家庭教育の支援に取り組んでいるところであります』と答弁がなされました。次に3点目として、2ページになりますが、『家庭教育の支援に必要な人材とはどのような方と認識されているのか』とのご質問がございました。教育長からは、『支援は、家庭の自主性を尊重しつつ、保護者が安心して子育てや教育ができるよう、地域社会全体で相互に協力しながら一体的に行う必要があります。地域の子育て団体、子ども会、学校、行政等が力を合わせて支援していくことが必要であり、それらのメンバーそれぞれが必要な人材と考えております』と答弁がなされました。これに関連いたしまして、同議員から再質問がございまして、『国の第2期教育振興基本計画に定める「豊かなつながりの中での家庭教育支援の充実」の実行性を高めるためのガイドラインを作成すべきと思うが考えを伺う』とのご質問。さらに再々質問として『家庭教育に関わる専門家を招いた講演会を開催する考えはないか』とのご質問がございました。教育長からは、『少子化や核家族化の進行など家庭環境の多様化や地域社会の変化により、支援の必要性が高まっていると考えており、ガイドライン、指針の作成については、他自治体の事例も参考にしながら、研究させていただきたいと考えております。また、講演会に関し、家庭教育の支援策として、保護者のみならず、地域住民の方々も対象に、生涯学習セミナーとして、開催することを検討してまいりたい』と答弁がなされました。次に市政クラブ田村議員からは、カーリングの推進について2点のご質問があり、『(1) オリンピックに向けた具体的な取り組みについて伺う』とのご質問について、市長からは、『L S北見がオリンピック出場の日本代表権を獲得したことで、さらなるカーリング振興や市のPRにもつながるため、壮行会の開催、選手の派遣補助、パブリックビューイングの実施など様々な応援の取り組みが考えられるところであります。具体的には、チームの良好なコンディション確保を最優先に、チーム関係者等とも協議のうえ進めてまいりたいと考えております』

と答弁がなされました。次に3ページになりますが、『(2) オール北見のカーリング振興策について伺う』とのご質問がございました。教育長からは、『他のスポーツ競技同様、振興における行政の役割は、競技場の整備や運営・維持管理など主にハード面の環境整備であり、適切に行ってまいりたいと考えており、また普及振興や競技力向上などソフト面についても北見カーリング協会との連携のもと、初心者を対象にした教室の開催や学校授業での体験などにより、市民の方々がカーリングに触れる機会を増やしてまいります。この度のL S北見のオリンピック出場の快挙は、チームの並々ならぬ努力、地元カーリング協会や関係者の多大なるご尽力により成し遂げられたものであり、これからも競技団体との協力のもとで、本市ならではの冬季スポーツとして振興してまいりたいと考えております』と答弁がなされました。以上が代表質問に対しての答弁内容であります。かけはし・新しい風倶楽部加城議員ほか一般質問につきましては、お手元の資料をご一読いただければと思います。以上でございます。」

教育長
(志賀亮司)

「ただいまの報告に対し、ご質疑があれば発言願います。」

教育長
(志賀亮司)

「ご質疑ございませんか。」

委員

「ありません。」

教育長
(志賀亮司)

「なし、との発言ですので、報告を了します。」

教育長
(志賀亮司)

「次に報告第2号『平成29年度北見市教育委員会「全国学力・学習状況調査」の結果報告について』報告願います。」

教育長
(志賀亮司)

「指導室長」

指導室長
(杉浦 潤)

「今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果について、報告させていただきます。議案、3ページをご覧ください。教科に関する調査につきまして、小学校の平均正答率は、国語A70.

2%、国語B 51.5%、算数A 74.6%、算数B 39.1%となっており、いずれも全国平均を下回っています。各教科の課題等としましては、国語では、漢字の読み書きなどについてよくできた児童が多かったものの、文章を読んで自分の考えをまとめることや目的に応じて引用して書くことなどに課題が見られました。算数では、計算の理解などについては、よくできた児童が多かったものの、数量や図形について判断した理由や解決の方法を説明することなどに課題が見られました。

議案、4ページをご覧ください。中学校の平均正答率は、国語A 75.2%、国語B 69.1%、数学A 63.3%、数学B 44.8%となっており、いずれも全国平均を下回っています。各教科の課題等としましては、国語では、相手にわかりやすいように語句を選んで話すことなどについてよくできた生徒が多かったものの、書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書くことなどに課題が見られました。数学では、一次方程式や多角形についての理解などについてよくできた生徒が多かったものの、資料の活用について判断の理由を説明することなどに課題が見られました。今後は、これらの課題の改善に向けて、北見市として学力向上の取組を、より一層推進してまいりたいと考えております。以上であります。」

教 育 長 「ただいまの報告に対し、ご質疑があれば発言願います。」
(志賀亮司)

委 員 「今年度の結果が出たということでありましたが、昨年度の結果と比べてどのような変化があったのか、わかっている範囲で教えてください。」
(坂口 廣典)

指導室長 「昨年度の結果と比べてでございますが、昨年度の平均正答率と比較しますと、小学校では、国語B、算数Aで全国との差が縮まりました。また、中学校では、国語A、国語B、数学Aで全国との差が縮まりました。以上でございます。」
(杉浦 潤)

委 員 「近隣市町村の公表状況は、どのようになっているのでしょうか。わかる範囲で結構ですので教えてください。」
(横岡良志恵)

指導室長
(杉浦 潤) 「道東、近隣の市における公表内容は、それぞれ共通して記載されているものは、『調査結果の概要』、『改善の方向性』、『教育委員会の取り組み』であり、これらの内容を文章や数値、表やグラフで数ページを使い説明しております。また、市によっては、これらの内容を2ページに絞ってシンプルに公表しているところ、また、各教科で課題の見られた設問の問題例を載せている市もございます。以上であります。」

委 員
(那須美由紀) 「近頃ですね、子ども達が非常に家庭の中でテレビを見たり、ゲームをしたり、またインターネットを使ったりという使用の時間が非常に増えていると伺っております。これはやはり家庭教育の課題が大きいのかなと思いますが、家庭教育といえは社会教育部でそのような取り組みを行っているとお聞きしておりますが、具体的にどのような取り組みを社会教育部として行っているのか教えていただきたい。」

生涯学習課長
(熊谷朋彦) 「那須委員からご質問いただきました『家庭教育について』ですが、現在、生涯学習課で行っている事業といたしましては、小・中学校のPTA等を対象といたしました『はぐくみ学級』というものを毎年度開設しております。これは、保護者に対する学習機会の提供と学習支援を実施する事業でございます。その他に、市が平成20年度から行いました『家庭教育5つのふれあい』、これを推進するために、青少年課と推進プロジェクトを立ち上げまして、毎年度『親子ふれあい体験事業』というものを3事業程実施させていただいております。以上でございます。」

教 育 長
(志賀亮司) 「他にご質疑ございませんか。」

委 員 「ありません。」

教 育 長
(志賀亮司) 「なし、との発言ですので、報告を了します。」

教 育 長
(志賀亮司) 「以上で、本日付議された案件は、全て議了いたしました。事務局より、その他の報告事項があれば発言願います。」

教育長 「指導室長」
(志賀亮司)

指導室長 「9月の定例教育委員会において、横岡委員からご質問がございましたが、この場をお借りして回答させていただきたいと思います。

1つ目、『こころの劇場』は、いつから始まったか?でございますが、この事業は、劇団四季と財団法人舞台芸術センター、その他多くの企業の協力によって平成20年よりスタートし、北見市としてはこの事業の主旨に賛同し、平成21年より実施しております。

2つ目、『こころの劇場』の名称についてでございますが、劇団四季が全国の小学生に行っている観劇教室が『こころの劇場』という名称でございます。子ども達への情操教育に寄与するものであり、大変良い名称であると感じているところです。

3つ目、『こころの劇場』が6年生で行われている理由でございますが、劇団四季が対象者を『基本的に小学校6年生を招待』としております。劇団四季の演劇は、理解力が高まり、多感な時期でもある小学校6年生でこそ見る効果があると考えております。劇団四季の解説では、『生命の大切さ、人を思いやる気持ち、信じあう喜び等生きていくうえで大事なことを舞台を通じて語りかけたい』とあります。北見市としてもその趣旨に賛同し、北見市民会館で市内の全6年生を対象に毎年実施しております。子ども達からの評判も大変良く、情操教育の推進のためにこれからも推進、継続してまいりたいと考えております。以上でございます。」

教育長 「ただいまの報告に対し、ご質疑があれば発言願います。」
(志賀亮司)

委員 「ありません。」

教育長 「なし、との発言ですので、報告を了します。」
(志賀亮司)

教育長 「その他、報告事項はありませんか。」
(志賀亮司)

学校教育部長 「ありません。」
(伊藤智則)

教 育 長 「なければこれにて、平成29年第10回定例北見市教育委員会を閉
(志賀亮司) 会いたします。」